

令和3年度 第4回沖縄県がん診療連携協議会 小児・AYA部会 議事要旨

日 時：令和4年2月24日（木） 16:00～17:30

場 所：WEB会議

構 成 員：17名

出 席 者：13名

比嘉猛(南部医療センター・こども医療センター小児科)、城間敏生(代理 奥間あさみ 沖縄県教育庁保健体育課)、玉城学(代理 濱元伸 沖縄県教育庁県立学校教育課)、新屋敷誠(森川特別支援学校)、金城敦子(がんの子どもを守る会 沖縄支部)、伊波善之(沖縄県保健医療部健康長寿課)、浜田聡(琉大病院小児科)、當銘保則(代理 大城裕理 琉大病院整形外科)、百名伸之(琉大病院小児科)、銘苺桂子(琉大病院産婦人科)、當山美奈子(琉大病院看護部)、増田昌人(琉大病院がんセンター)

欠 席：4名

朝倉義崇(中部病院血液・腫瘍内科)、大城一郁(南部医療センター・こども医療センター血液・腫瘍内科)、佐久川夏実(南部医療センター・こども医療センターCLS)、森島聡子(琉大病院第二内科)、

陪 席 者：2名

有賀 拓郎(琉大病院 診療情報管理センター)

石川 千穂(琉大病院 がんセンター事務)

【報告事項】

1. 令和3年度 第3回小児・AYA部会 議事要旨(12月16日)
百名委員より、資料1に基づき説明があり、承認された。
2. 小児・AYA部会 委員一覧
百名委員より資料2に基づき、委員について報告された。
3. 「妊孕性温存療法」と「がん治療後の生殖医療」WG 委員一覧
友愛医療センター産婦人科より委員が加わった旨説明があった。また、資料3-2の通り、各施設よりがん治療医と県担当者へも加わってもらえるよう依頼予定。
4. 沖縄県における妊孕性温存治療に関する試算
資料4に基づき、増田委員より説明があった。
5. 沖縄県共通の妊孕性温存の説明文書と「がんと生殖カウンセリングシート」の周知状況について
銘苺委員より、資料5の通り説明があった。

6. 沖縄県内の各医療機関での研修会について
銘苅委員より、資料6のように進んだことが説明された。3月には宮古病院で開催予定。
7. 「妊孕性温存療法」に対する医療補助について
伊波委員より、資料7に基づき、医療補助への申し込みの方法と、申し込み実績が報告された。実績の表とは別に、卵子凍結が2件、精子凍結が3件あったとのことで、合計9件の助成があった。
8. がん・生殖医療連携シートの改訂について
銘苅委員より、助成金を受ける為の登録に確認が必要な項目が増えたために改訂されたと説明された。
9. 妊孕性温存療法に関するオンライン診療について
初診のオンライン診療を行えるよう、琉大で準備中である。オンライン診療が開始されたら、がん生殖のオンライン診療も一緒に進められる予定とのことだった。開始は来年夏頃を目標としているとのことだった。
10. その他

【協議事項】

1. ロジックモデルと今年度の部会活動計画について
時間の都合で、他協議事項が優先で協議された。次回以降改めて協議される。
2. 沖縄小児がん相談支援マニュアルの改訂について
資料10のように、以前から百名委員より提案がある。現在、事務局で、マニュアルワーキング委員候補者へ依頼済み。南部医療センター・こども医療センター、那覇市立病院、がんの子どもを守る会より、委員承諾を頂いていることが事務局より報告された。
3. 小児がん保護者向けマニュアルの作成について
増田委員より、協議事項2のマニュアル改訂と共に進める予定であると説明された。
4. AYA世代のがんの詳細なデータの登録について
5. AYA世代のがんの中で横紋筋肉腫、骨肉腫、Ewing肉腫等のいわゆる小児がんの罹患の分析について
6. AYA世代の就学について
7. AYA世代の就労支援について
8. AYA世代のがんの長期フォローアップについて
九州大学病院が小児がん拠点病院であるが、琉大病院はその連携病院となっている。上記協

議事項4～8については小児がん QI 調査対象項目にもなっているが、がん種によっては小児科が把握できていない患者データの収集をはじめ、課題が多いため、前回部会から引き続き、百名委員より AYA 世代のがんに関する課題が提起された。登録関連については、増田委員より、資料 11-2『小児・AYA 世代のがんの登録数とその推移』、資料 11-3『AYA 世代のがんの中で横紋筋肉腫、骨腫瘍、Ewing 肉腫等のいわゆる小児がんの罹患の分析について』のデータのように示す方法が、琉大がんセンターでまとめることができる方法であると説明があった上で、小児拠点の QI 調査に必要なデータについては、研究事業なので小児科の方でまとめて頂いてはどうかとの提案だった。今後、研究ではなく事業として病院全体で対応して頂けるようになるまでは、小児科の方でまとめていくこととなった。就労に関しては、主治医の紹介から相談支援センターつないでもらえれば、就労支援ナビゲーターや産保センター、ハローワークの支援につなげることもできるとの説明があった。新屋敷委員より、特別支援学校高等部の卒業生には、卒業後2年間は県教委で「進路状況追跡調査」を行って進路状況を確認している。また、各学校では卒業生の要望があれば、進学や就労に関する相談やフォローアップは行っているとの情報提供もあった。金城委員の周りの保護者から得る情報では、大学によって支援体制に差があるようだった。増田委員より、県内の各大学でフォローアップの充実をはかれないか、突破口となりそうな大学へ個別に声掛けしてみるとの発言があった。

9.AYA 世代への情報提供チラシの作成について

増田委員より A4 か A5 裏表のチラシで、産婦人科の妊孕性温存療法の情報提供チラシと情報が被らないように作成したらどうかと提案があった。妊孕性温存のチラシを先に流したうえで、就学・就労等の情報を載せた AYA 世代向けチラシを作成することとなった。

10.次年度の部会長及び副部会長について

現在部会長の百名委員が3月で琉大を退職となることもあり、次年度の部会長を担ってもらう委員をどうするか協議された。百名委員より、小児科後任の浜田委員の推薦があった。百名委員より、浜田委員へ確認する。

11. 次回開催日程について

5月か6月開催予定。後日事務局より日程調整依頼することとなった。

12.その他

金城委員より、別紙の通り、病院内ピアサポート、ボランティア、サロン等の活動が出来る場所に関する要望書が提出された。

- ① 付き添いをしている親の悩み相談(ピアサポート)が出来る場所
- ② 家で待っているきょうだいの支援が出来る場所
- ③ ボランティア活動が出来る場所
- ④ イベント、サロン等交流が出来る場所
- ⑤ 治療中、家族が過ごせる滞在する施設の創設

滞在施設候補としてマクドナルドハウスを病院として受け入れる話は無いか確認があった。南部・こども医療センターにある、がじゅまるハウスでは距離が遠いので、琉大の近くにも滞在施設があればとのことだったが、琉大は移設計画がすでに進んでいるので、現時点では難しいようだった。要望書の提出先を変えたり、クラウドファンディング等、今後も検討していくとのことだった。

令和3年度 第1回がん患者さんがお子様をもつことを応援する医療
「妊孕性温存療法」と「がん治療後の生殖医療」WG
議事要旨

日 時：令和4年2月17日（木） 15：00～16：00

場 所：「Zoom」を用いたWEB会議

出席者：6名

野里栄治(北部地区医師会病院 医局長・外科外来医長)、大畑尚子(県立中部病院 産婦人科副部長)、中上弘茂(県立八重山病院 産婦人科部長)、石川裕子(県立宮古病院 産婦人科医長)、白石康子(友愛医療センター)、銘苺桂子(琉大病院 周産母子センター教授)、増田昌人(琉大病院がんセンター長)

欠席者：

池宮城梢(那覇市立病院 産婦人科部長)

陪席者：2名

有賀拓郎(琉大病院 診療情報管理センター 副センター長)

石川千穂(がんセンター事務)

【報告事項】

1. 前回 WG 議事要旨(令和2年12月17日)

資料1の通り、承認された。

2. 令和3年度第3回 小児・AYA部会 議事要旨 (令和3年12月16日)

資料2の通り、承認された。

3. 妊孕性温存療法とがん治療後の生殖医療WG 名簿

資料3に基づき、確認があった。今回から友愛医療センター産婦人科の白石康子先生が委員として加わった。

4. 小児・AYA部会 名簿

資料4に基づき、確認があった。

5. がんに関わる全ての医師に対する院内研修会の開催について

資料5に基づき、開催済みの施設が報告された。現在、県立宮古病院での現地開催(3月予定)で調整中。大畑委員より、症例検討会もあわせて、継続的に数年毎にでも研修会(オンライン可)を行って頂けないかとの提案もあった。

6. 「妊孕性温存療法」に対する医療補助について

(1)医療補助申し込み文書

資料 6-1 に基づき、妊孕性温存の医療補助に関する説明があった。臨床研究登録に同意してもらえる患者さんに、この申し込み用紙を提出し申請してもらう。

(2)申し込み実績(令和3年1月末時点)

現時点での実績は、資料 6-2 の通りである。

7.その他

増田委員より、AYA 世代がんに関するシンポジウムや『高校生活とがん治療の両立のための教育サポートブック』等について情報提供があった。

【協議事項】

1. 妊孕性温存療法 WG 委員の追加について

このWGの主旨の一つが、「どうすれば、がん治療医の先生に小児・AYA 世代の患者さんへ、妊孕性温存療法についての情報を伝えてもらえるか」であることが改めて確認された上で、別紙のような委員追加の提案があり、がん治療医にもWGへ入って頂くよう依頼することとなった。大畑委員より、南部医療センター・こども医療センターの医師の加入はどうかと、提案があった。北部地区医師会病院に関しては、野里委員から、消化器がんや乳がんで手術の件数が多いところだと、県立中部病院・中頭病院・那覇市立病院・浦添総合病院・友愛医療センターなどは対象になる患者さんは多いのではないかとのことだった。友愛医療センターには精巣悪性腫瘍の患者さんも多いということだったので、同院泌尿器科へ、白石委員から紹介依頼のアナウンスを行って頂けないかと、銘苅委員より提案もあった。上記内容含めて、今後詰めていく。

2. がん・生殖医療連携シートの改訂について

臨床研究に登録するにあたり、必要事項を記載し改訂した。カウンセリングを受けたい患者さんがいて、治療医がカウンセリングシート全部を埋めるのが難しい場合は、必要最低限な箇所を埋めてもらい、残りどうしても確認が必要な部分は、琉大から電話で聞き取りを行っているので、今後もそのように進めて良いかの確認があり承認された。尚、カウンセリングシートさえしっかり埋めてもらっていただければ、紹介状は簡単な記載で構わないとのことだった。事務局より、新しいデータを各施設に送付し、現在電カルに載せてもらっているデータと差し替えを依頼する。

3. 妊孕性温存療法に関するオンライン診療について

陪席の有賀先生より、現在、琉大でオンラインセカンドオピニオン外来を構築中との説明があった。申し込みから会計処理までどのように行えばセキュリティ担保できるか、URLの発行や部外者がアクセスできない方法等、課題について調整中だが、セカンドオピニオンで、うまく進めば、妊孕性温存療法の方にも、どういうことができる・問題点はこういうところ、なども含めて提示したいとのことだった。

4. 拠点病院および診療病院において、対象患者すべてに、
生殖機能の温存に関する説明を共用文書を用いて行うにはどうしたらよいか
5. 琉大病院の『妊孕性温存療法についての専門外来』へ積極的に紹介するにはどうしたらよいか
6. 症例検討会について
協議事項 4 から 6 については、WG に腫瘍の先生に入ってもらうこと、2 回目以降の研修会(症例検討会含む)を行うことにより、現場の先生方に理解を深めて頂くこととなった。
7. 次回 WG 開催日程について
オンラインセカンドオピニオンの構築について進捗が見込まれる 6 月頃を目安に開催する。尚、助成金について問題が発生した場合は 6 月前にでも開催調整を行う。